

鹿折小学校学校安全だより

第2号

令和2年4月

担当 畠山 昭洋

気仙沼市「防災を考える日」4月のテーマ

近隣の安全な場所などを確認しましょう

新型コロナウイルス感染症予防対策による臨時休業で御心配をおかけしております。今後も児童の安全のため に御協力お願いいたします。

Jアラートについて

全国瞬時警報システム(J アラート)は、「弾道ミサイルが日本の領土・領海に落下する可能性又は領土・領海を通過する可能性がある場合」に使用されます。

防衛省によって、北朝鮮が3月2日、9日、21日、29日に弾道ミサイルを発射したことが確認されています。世界中がコロナウイルスの脅威によって混乱している現在、さらなる行動を起こすことも考慮しなければならない状況にあります。万一に備えて、身を守る方法を確認してください。

- ① 屋外にいる場合には、近くの建物の中に入って安全を確保する。
- ② 建物がない場合は物陰に身を隠す。身を隠す物がない場合には、地面に伏せて頭部を守るなどする。
- ③ 屋内にいる場合は、窓から離れるなどして、ガラス等の飛散から身を守る。



弾道ミサイルは兵器ですので,以上の行動をとったからといって確実に安全が保障されるわけではありません。 しかし,爆風や破片から身を守ることは,少しでも被害を減らすことに役立ちます。落ち着いて行動できるよう, 日頃から備えていただきたいと思います。

駐車場の利用について

登下校の送迎時における, 西八幡公園駐車場の御利用に御協力いただきありがとうございます。児童の安全及 び保護者の皆様の事故防止のために, 今後もよろしくお願いいたします。

なお、学校周辺の路上での駐停車についても、法令違反になる場合がありますと共に、交通事故の要因になる 危険性がありますので、固くお控えくださるようにお願いいたします。

引き続き,新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策について, よろしくお願いいたします。

※店舗によっては、手指消毒用の薬品の近くに「メチルアルコール」。「メタノール」「燃料用アルコール」が陳列されていることがあります。これらの薬品は人体に有害ですので、手指消毒用としてはお使いになりませんように御注意ください。



一般に手指消毒用として使用されるのは、「エチルアルコール」「エタノール」です。こちらはお酒などに含まれるアルコールです。一文字違いでも人体への影響は大きく違いますので、御確認をお願いいたします。

「ながら見守り」のお願い

まだ先が見通せない状況ですが、安全安心な学校の再開に向けて、教職員一同準備を行ってまいります。 学校が開始されましたら、地域の皆様には児童の登下校の安全に御協力をお願いいたします。

見守りを目的とするのではなく、ウォーキングやジョギング、散歩、庭での作業などの際に防犯の視点をもって見守ってくださいますよう、お願いいたします。

※児童の登校時刻 8時15分

児童の下校時刻 3月 1日~10月15日 16時30分

10月16日~ 2月28日 16時00分

学年によって下校が14時30分頃になることがあります。



弾道ミサイル攻撃を受けたとき を分けるのは避難行動

弾道ミサイルが着弾した場合、激しい爆風や破片などにより、 身体へ大きな被害を受ける可能性があります。

爆風や破片などから身を守るため、状況に応じた避難行動を とることが大切です!





屋外にいる場合

爆風や破片などを避ける



近くの建物の中 (できれば頑丈な建物) または 地下へ

もしも、近くに建物がない場合は



物陰に身を隠す または 也面に伏せ頭部を守る

屋内にいる場合

爆風で割れた窓ガラスなどを避ける



窓から離れる または

よくあるご意見と回答

Jアラートが流れた後に 避難を始めても手遅れでしょう?

A. 避難行動にかけられる時間は限られたも のですが、それでも、近くの建物の中や地 下へ避難する、物陰に身を隠すなど、わず かな時間でもできることはあります。

地面に伏せる、頭部を守る……。 それで、ミサイル攻撃から 身を守れるとは思えません

🗛 横(水平)方向に広がる爆風や飛散する破 片等に対して身体の衝突面を極力減らす ことが重要なので、避難行動をとらない場 合と比べれば被害を軽減できる可能性を 高めることができます。

近所には、丈夫な建物も地下もなく、 避難できるところがありません

A. 横(水平)方向に広がる爆風や飛散する 破片等に対して身体の衝突面を極力減ら すことが重要なので、木造住宅へ避難す るだけでも、避難行動をとらない場合と 比べて被害を軽減できる可能性が高まり ます。

避難したところで、弾道ミサイルが 直撃したら何をやっても無意味では?

A. 弾道ミサイルによる被害の程度は、その威 力などによりさまざまであり一概には言え ませんが、地下への避難などの適切な避 難行動をとることで、避難行動をとらない 場合と比べて被害を軽減できる可能性を 高めることができます。

詳しくは、内閣官房国民保護ポータルサイトへ 国民保護 |

2018.4 作成

内閣官房